

PRESS RELEASE

ギャラリー小柳 展覧会のご案内

中村 裕太 | 柳まつり小柳まつり

Yuta Nakamura: Willow Festival Little Willow Festival

2017.11.18 (土) – 2018. 1.27 (土)



中村裕太「柳まつり小柳まつり」参考資料（小柳嘉一郎《柳まつり小柳まつり》短冊）

報道関係者各位

平素よりお世話になっております。

この度ギャラリー小柳では、2017年11月18日（土）から2018年1月27日（土）の会期にて、中村裕太による個展「柳まつり小柳まつり」を開催いたします。本展は、関東大震災や第二次世界大戦という混乱を経て屈折した近代化を遂げた銀座の都市空間を、ギャラリー小柳の前身である1852年創業の陶器店・陶舗小柳の歴史を紐解く中で概観し、資生堂をはじめとする銀座の商店建築の変容とその店頭に並べられた商品がいかに人々の生活を理想的に演出してきたのかを当時の資料や商品を再構成したインスタレーションとして表現します。

中村裕太は1983年に東京で生まれ、現在は京都を拠点に活動する作家です。京都精華大学芸術研究科の博士課程においては、タイルや陶磁器の歴史を人文学的観点から研究しました。その後、アカデミックで精緻なリサーチを基盤とした考察から作品を制作するスタイルが評価され、「あいちトリエンナーレ2016」や「第20回シドニー・ビエンナーレ」（2016年）などの主要な国内外のグループ展に招かれるなど、近年最も注目されている若手作家の一人です。史実や文化の在り様を作品に落とし込む客観的な視点は中村独自のものであり、中村の手で収集された陶片、古書、古い写真、絵はがき、建築図面といった一次資料と、中村の手によりつくり出されたものとで再構成されたオブジェや空間には、重厚な物語が静かに息づいています。

展覧会タイトルに含まれる「柳まつり」とは、銀座通りの街路樹で現在も銀座のシンボルとして親しまれている柳の木をかんむりとした、銀座界隈で催されたお祭りでした。対して「小柳まつり」とは、陶舗小柳の5代目店主・小柳嘉一郎（1922-2010）が、この「柳まつり」に掛けて洒落っ気たっぷりに企画したキャンペーンで、自ら「柳まつり小柳まつり」と記した短冊をデザインし、店頭の商品を飾り立てました。中村は展示構成を「柳まつり」と「小柳まつり」の2つのパートに分け、「柳まつり」では4つの店舗外観のファサードに着想を得たショーケースに商品や資料を収め、「小柳まつり」では食卓を描いた静物画のように短冊と陶器を配置した棚を制作します。

展覧会の初日、11月18日（土）は16時から17時30分まで、作家の活動を注視してきた森美術館チーフ・キュレーターの片岡真実氏と作家によるギャラリートークを行ないます。

引き続き18時から20時までは、作家在廊にてオープニング・レセプションを開催いたします。

是非取材にお越し頂けますと幸いです。

資料および図版のご依頼、ギャラリートークのご予約は担当者までご連絡ください。

ご掲載の際にはご一報いただけますよう宜しくお願い申し上げます。

ギャラリー小柳

【広報用図版】



中村裕太「柳まつり小柳まつり」参考資料（小柳嘉一郎《柳まつり小柳まつり》短冊）
© Yuta Nakamura / Courtesy of Gallery Koyanagi

参考作品画像

1



中村裕太《日本陶片地図》
2016

「あいちトリエンナーレ 2016」（愛知県美術館、2016年）展示風景
撮影：表 恒匡 / Photo: Omote Nobutada
© Yuta Nakamura

2



3



中村裕太《タイル植物園 | 熱帯植物の観察術》
2017

撮影：表 恒匡 / Photo: Omote Nobutada
© Yuta Nakamura

4



中村裕太《日本陶片地図 | 京都府京都市東山区山崎町》
2014

撮影：表 恒匡 / Photo: Omote Nobutada
© Yuta Nakamura

5



中村裕太《タイルホコラツーンリズム | 崇仁上之町》
2015

撮影：表 恒匡 / Photo: Omote Nobutada
© Yuta Nakamura

【作家略歴】

中村 裕太

1983年東京生まれ、京都在住。2011年京都精華大学芸術研究科博士後期課程修了。博士（芸術）。博士論文「郊外住居工芸論—大正期の浴室にみる白色タイルの受容」。〈民俗と建築にまつわる工芸〉という視点から陶磁器、タイルなどの学術研究と作品制作を行なう。最近の展示に「六本木クロッシング2013展：アウト・オブ・ダウト—来たるべき風景のために」（森美術館、2013年）、「第8回アジア・パシフィック・トリエンナーレ」（クイーンズランド・アートギャラリー、2015年）、「第20回シドニー・ビエンナーレ」（キャレッジワークス、2016年）、「あいちトリエンナーレ2016」（愛知県美術館、2016年）など。工芸を作り手の視点から読み解き、その制作の方法を探る教育プログラム「APP ARTS STUDIO」を運営している。

【展覧会概要】

作家名：中村裕太

展覧会名：柳まつり小柳まつり

会期：2017年11月18日（土）～2018年1月27日（土）

11月18日（土）

16:00～17:30 ギャラリートーク：中村裕太 x 片岡真実（森美術館チーフ・キュレーター）

*受付開始 15:30 *先着 20名様まで座席のご予約を承ります。

18:00～20:00 オープニング・レセプション（作家来場）

開廊時間：11:00～19:00

休廊日：日・月・祝祭日、冬季休廊 [12月24日（日）～2018年1月8日（月）]

会場：ギャラリー小柳

東京都中央区銀座1-7-5 小柳ビル 9F

Tel: 03-3561-1896 Fax: 03-3563-3236

交通：東京メトロ有楽町線 銀座一丁目駅7番出口より徒歩1分

丸ノ内線・銀座線・日比谷線 銀座駅A-9出口より徒歩5分

URL：<http://www.gallerykoyanagi.com>

お問い合わせ／トークイベントご予約／写真請求先：ギャラリー小柳（担）善名／笠松

電話 03-3561-1896 | メールアドレス mail@gallerykoyanagi.com

中村 裕太

1983 東京都生まれ
 2005 京都精華大学芸術学部造形学科陶芸分野卒業
 2007 京都精華大学大学院芸術研究科博士前期課程修了
 2011 京都精華大学大学院芸術研究科博士後期課程修了 博士（芸術）取得
 2016 文化庁新進芸術家海外研修員〔短期研修・後期〕 オーストラリア、 シドニー
 現在 京都在住

主な個展

2017 「タイル植物園 熱帯植物の観察術」 名古屋市東山植物園、愛知
 「柳まつり小柳まつり」 ギャラリー小柳、東京
 2009 「めがねや主人のペンキ塗り」 neutron tokyo、東京
 「豆腐と油揚げ」 neutron kyoto、京都
 2008 「SHOW/ROOM」 shin-bi、京都
 2007 「NOW NO SWIMS ON MON」 neutron、京都

主なグループ展

2017 「高見島-京都 日常の果て」 京都精華大学ギャラリーフロール、京都 [APP ARTS STUDIO として参加]
 「アジア回廊 現代美術展」 京都芸術センター、京都
 2016 「20th Biennale of Sydney」 Carriageworks、シドニー、オーストラリア
 「KAAT 突然ミュージアム 2016」 神奈川芸術劇場、神奈川
 「あいちトリエンナーレ 2016」 愛知県美術館、愛知
 「タイルとホコラとツーリズム season3」 ギャラリーPARC、京都
 「瀬戸内国際芸術祭 2016」 高見島、香川 [APP ARTS STUDIO として参加]
 「信楽まちなか芸術祭」 旧平岩製菓舗、滋賀
 2015 「知らない都市 distant neighborhood」 kara-S・つくるビル 104A、京都
 「Still moving」 元崇仁小学校、京都 [APP ARTS STUDIO として参加]
 「知らない都市 Inside Out」 京都精華大学ギャラリーフロール、京都
 「タイルとホコラとツーリズム season2」 ギャラリーPARC、京都
 「The 8th Asia Pacific Triennial of Contemporary Art」 Queensland Art Gallery & Gallery of Modern Art、
 ブリスベン、オーストラリア
 2014 「タイルとホコラとツーリズム」 ギャラリーPARC、京都
 「Saga Media Arts Project 2014 Media Butterfly in Arita」 赤絵町工房、佐賀
 「醤油のうつわ、石のうつわ」 ギャラリー恵風、京都
 2013 「六本木クロッシング 2013 展 アウト・オブ・ダウト 来たるべき風景のために」 森美術館、東京
 2012 「KYO」 Ecole Regionale Des Beaux Arts、ブザンソン、フランス
 2010 「1floor2010 質朴/技術」 神戸アートビレッジセンター、兵庫
 「六甲ミーツ・アート芸術散歩」 六甲高山植物園、兵庫 [へとして参加]
 「裏山とタイル」 ギャラリー揺、京都
 2008 「gadget」 京都芸術センター、京都
 2007 「Asian Ceramics Network」 The National Art Gallery、クアラルンプール・マレーシア